恵下埋立地よくある質問と回答

【交通関係】

- 1 埋立地には1日何台のごみ搬入車両が出入りするのかわ。
1日の搬入車両台数は平均で45台を想定しています。
ただし、工事中の天皇原トンネル（仮称）が完成する令和10年度末までは、大型車（10t）で運搬する焼却灰は南区の出島処分場に搬入するため、恵下埋立地への当面の搬入台数は日平均約30台となります。
なお、天皇原トンネル（仮称）完成後の焼却灰搬入については、その時の状況を踏まえて再検討していきたいと考えています。
- 2 車両の通行が増加し、交通事故につながるおそれはないか。
ごみ搬入時間帯には、埋立地に向かう広島湯来線現道の幅員が狭い部分に交通整理員を配置し、事故防止に努めます。
- 3 ごみ搬入車両からごみが飛散するなど、周辺環境を汚染しないか。
焼却灰には重金属が含まれていますが、重金属が水に溶けださないよう化学的に安定した状態とするため薬剤での処理（キレート処理）を行い、運搬する車両は飛散防止のため荷台をシートで覆います。
- 4 冬期の道路凍結対策はどうか。
広島湯来線現道には凍結抑制舗装を施しており、また、凍結防止材について、通常使用される塩化カルシウムよりも環境への影響が少ない資材で対応するよう考えています。

【埋立関係】

- 1 遮水シートの耐用年数はどのくらいか。
遮水シートの耐久性については、15年を想定した紫外線照射試験で、試験後もシートの基本特性の劣化はほとんど見られないという結果等から、一般的には50年以上の耐久性を有していると考えています。
- 2 遮水シートの漏水検知センサーが故障することはないか。
恵下埋立地においては、電極やケーブルに錆びにくい素材を使用し、ケーブルは耐久性の高い樹脂で被覆されています。また測定用の電極は、仮に1か所が故障しても他の電極が補完して漏水検出ができるようになっており、機能は維持できると考えています。

3 遮水シートが万一破損した時はどのように補修するのか。

仮に埋立地底部で破損が確認された場合は、上部から掘削して補修するなどが考えられます。

【浸出水関係】

1 想定外の大雨時に浸出水調整池が溢れ、浸出水が漏れるおそれはないか。

浸出水調整池については、過去 30 年間の降雨パターンから必要となる最大容量を計算し、1 か月で 1,000 ミリメートル級の降雨量にも対応できる、2 万 4,600 立方メートルの容量を確保しています。

また、これ以外にも、埋立区域内で一時的に 1 万立方メートルの貯留が可能な構造となっていることから、想定外の異常降雨に対しても、浸出水が埋立地から区域外に溢れ出すことはないと考えています。

2 停電時、浸出水処理施設および放流管の安全性は確保できるのか。

浸出水処理施設は、停電時には速やかに自家発電装置が起動し、最長 72 時間の運転が可能です。

また、浸出水放流管にも圧送区間において、自家発電装置付きのマンホールポンプが設置され、停電時においても送水可能です。

3 浸出水は高度処理すると聞いているが、直接河川に放流できるのではないか。

放流水の水質を公共用水域へ流せるレベルまで浄化したとしても、水質は河川と同じではなく、高い塩分濃度も残っていることから、浄化した浸出水を継続的に河川等へ放流することは自然環境へ負荷を与えることとなります。

また、漁業資源や農業資源等に対する風評被害の恐れもあることから、浸出水を高度処理したとしても、河川に直接放流することはせず、公共用下水道に接続します。

【その他】

1 一般人でも不燃ごみを搬入できるのか、また予約は必要か。

市内で発生した不燃ごみであれば搬入可能です。

また、予約は不要ですが、ごみの誤選別の例が多いことから、事前に埋立地管理事務所（TEL：0829-78-2728）に電話して確認されることをお勧めします。

2 場内で里道が分断されているが、通行は可能か。

埋立地近隣の私有山林への出入りを希望される方は、事前に連絡頂ければ、職員または警備員がご案内いたします。